

<活動実績報告>

慶應義塾大学緊急医療体制支援特別事業

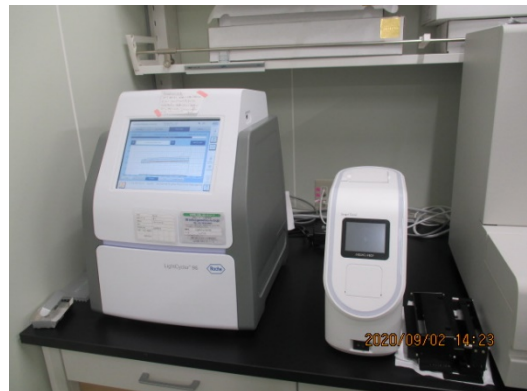
○活動実績

●2019年度

- ・基金運営委員会で強化すべき診療機能・部門について慎重に検討を行い、2つの診療部門を選定しました。当事業において主に病院長が負託するミッションを実行できる人材の候補者を診療科より推薦いただき、医師2名の採用を決定しました。
- ・外国人患者の受け入れ増のための救急診療機能の強化、また、2020年に入り急速に拡大した新型コロナウイルス感染症に対する緊急医療体制の拡充のため、以下の機材・資材の整備を行いました。
 - ・救護用エアテント 2台
 - ・新型コロナウイルス測定用検査機器（PCR）1台、同システム改修
 - ・遠隔診療用モニター 4台
 - ・医療用サージカルマスク



<救護用エアテント>



<新型コロナウイルス測定用検査機器>



<遠隔診療用モニター>

●2020 年度

2019 年度の基金運営委員会で強化すべき診療機能・部門（消化器内科、救急科）を選定し、2020 年 4 月より 2 名の医師を採用しました。いずれも主に病院長から負託されるミッションを担うことを前提とし、病院における医療体制の維持・発展を推進するため、担当診療科における診療、教育、研究活動にも従事しています。

—2020 年度採用医師の当該年度における主な活動内容—

<消化器内科>

(診療)

- ・炎症性腸疾患の外来・入院患者診療
- ・「病棟チーフ」として病棟管理業務、後進医師へのコンサルテーション・診療に関する教育
- ・管理栄養士、医師、薬剤師、看護師等の多職種から構成される Nutrition Support Team(NST)に所属し、栄養管理に難渋する入院患者に対する栄養療法に関する回診とカンファレンス、および継続的な評価とフィードバックを実施

(教育)

- ・症例カンファレンスにおける若手医師への指導
- ・初期臨床研修医、専修医ならびに大学院生への発表指導
このうち 1 名が国際学会「The 8th Annual Meeting of Asia Organization for Crohn's & Colitis (AOCC)」において Best Abstract Award を受賞

(研究)

- ・「炎症性腸疾患と血栓症」というテーマを中心とした大学院生への指導、および当院における実態をもとにリスクの高い患者の見極め方の研究

<救急科>

(診療)

- ・集中治療を要する重症患者（特に重症 COVID-19 入院患者）の診療
- ・人工呼吸器や ECMO の COVID-19 に対する特異的治療などの検討
- ・ECMO の診療体制の整備および診療フロー作成
- ・ECMOnet との連携、厚生労働省 ECMO チーム等養成研修事業への参加

(教育)

- ・専攻医や研修医に対する定期的な論文抄読会の主催、EBM 実践のための指導
- ・オンラインによる学生臨床実習のためのスライドやコンテンツ作成
- ・COVID-19 疑い/確定例に対する一次救命処置（BLS）に関する情報更新・教育

(研究)

- COVID-19 の臨床経験を踏まえた院内診療体制の整備・初期診療に関するレビュー
→第 48 回日本救急医学会学術集会での発表、論文投稿(Keio J Med. 2020)
- 厚生労働科学特別研究事業の救急領域における感染対策への参加・提言、および救命救急士への講習
- 米国救急学会雑誌へのアナフィラキシーショックに関する論文投稿(J Am Coll Emerg Physicians Open. 2020)
- 大動脈解離の早期診断に関する研究